

大道芸通信

編集発行/日本大道芸・大道芸の会 光田 憲雄 (daidogeiki@kib.biglobe.ne.jp) http:// daidougei.seesaa.net

江戸の物売りと大道芸

日時：三月二日(日)開演

十一時〇〇分〜十一時三十分

十二時三〇分〜十三時〇〇分

場所：深川江戸資料館 火の見櫓下

地下鉄清澄白河下車 徒歩三分

料金：大人四百円 小中高等五十円

ご見学にはチケットをお求めください

演目

春の物売り

季節の物売り

◎日常にきた物売り

アサリ売り

魚売り

かりんと売り

唐辛子売り

野菜売りなど

◎大道芸

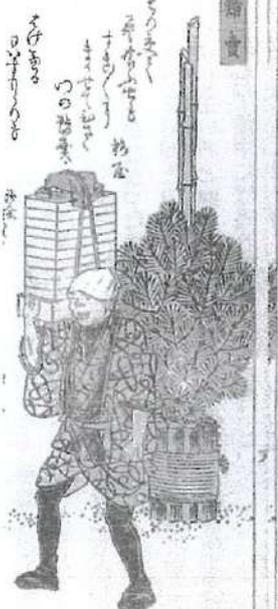
女霊媒師

神霊術

玉すだれ

小鯖売り

(『狂歌四季人物』)



特定の氏神様へ行く人以外いました。は寝正月が普通でした。ですから渡り鳥が未だ来らなかつたからです。大人にとつ

その代わり二日は、早朝ないうちに、来ても対抗出ても普段は締め切っている大から全てのものが動き始め来るように、滋養豊富な七名屋敷の門扉が一斉に開け放

ました。二日の朝を告げる草を食べておこうとしました。邸内見物が出来ました。ものと云えば、「小鯖の船売」た。最後の「とことん」とこ

り」です。にぎり寿司が流とん」は、俎の上で七草を油揚げ売りがきました。行

方由来の押し寿司が姿を消 当時は現在のような初詣 「こんち(今日)今日と狐の

しました。未だ明けやらぬ二日 「初子」大黒天 「初天神 狐の好物とされる油揚げを

の早朝から江戸の町々を流(丑) 「初寅」毘沙門天」な お供え用に、後でお下がり

し歩いていました。しかも どです。「初卯」は商売繁を頂くために稲荷餅(三角形

「坊主だまして還俗させて 盛や開運出世などを願ひ、は狐の耳、俵型は米俵)にし

小鯖の船でも売らせたい」 京都の石清水八幡宮、賀茂で備えるために買求めま

といわれたほど、しみじ 神社、大坂住吉明神(大社) いた。

「すしやアコハダのヲすし」 ています。江戸の初卯詣でをし 吉原が舞台なので「吉原細見

と、 年の明けて七日目は人日(七草) 見に寄 戸町角町 大見世小見世の

七草粥の日です。七草売り つていました(明治四十三年 何でもわかるよ 細見)

が、呪文のように唱えなが ・一九一〇害に遭い枯死) 手拭いを吉原かぶりにした

「七草なすな 唐土の鳥がみ。今では『俳風柳多留』た。そのほか日常生活に必要

日本のお国に届かぬ先に「初卯の日 まだ眠そう なものを売り歩く物売りも

恵方(あき)に向こうて七草を な臥龍梅」の川柳を残すの 沢山いました。いくつを紹介

と「とことん」とん) みです。 「唐土の鳥」は、寒い時期 小正月も終わり、お正月アサリ売り、魚売り、かりん

に流行る病 インフルエンザ 気分がすつかり抜けた一月と売り、唐辛子売り、煮豆

等の病は大陸から飛んでく 中旬以降になると、江戸の 売り、物産館売り等です。

る渡り鳥のことです。イン 人達が、待ちに待った「初 また大道芸人なども来てい

フルエンザに限らず流行病 午(今年は二月六日)用 ました。次頁でご紹介します。

は、全て大陸からの渡り鳥 「太鼓売り」が顕れました。最後に玉すだれをご紹介します。

が運んでくると信じられて 子供達が 太鼓を叩きなが たいと思います。